

ニッポンの財産、地域資源を守るために

～資源保全政策の確立に向けて～

水田、畑、用水路、農業用水、水利施設、里山、^{ちんじゅ}鎮守の森、田園景観、有機性資源、伝承文化といった農村地域の財産を「地域資源」と呼んでいます。これらは古来から長い時間をかけて形成され、脈々と受け継がれてきたもの。だからこそ、一度失ってしまうと復元はむずかしく、時間も費用もかかります。そして、その場所にあってこそ意味のある、また動かしがたいものでもあります。どの地域資源もわたしたちが農業という営みを通して培ってきたものでもあり、共同作業によって守り、伝えてきたものばかりです。

和歌山県清水町蘭島（あらざしま）



農地

水田や畑などは日本の美しい景観をつくり、雨水を一時的に貯留するなど国土保全や有機物の分解などの役割も果たしている。



有機性資源

農村地域では、家畜排泄物や集落排水の汚泥、食品廃棄物などを資源として循環させる。



農村コミュニティ

農村では、昔から共同体が主体となって農地や農業用水路を保ってきたほか、伝統文化の継承が行われてきた。

農業の自然循環機能

農村地域

いま農村は、過疎が進み、高齢化は想像もつかない速さで進行しています。かつてはあたりまえに機能していた地域資源を保全する力が失われつつあります。農村の地域資源が失われると、同時に果たしていた国土保全や環境保全の機能も失われてしまいます。

地域資源はニッポンの財産。都市も農村も、いずれに暮らす誰もがともに手を取り合い、みんなで守っていききたいものが、わたしたちの国にはあるのです。



農業用水

農業用水や用水路は食料生産のほか、水循環系を形成。防火・生活用水、生態系保全、親水や消雪、景観保全などの役割を果たす。

新潟県松之山町



農村の環境と景観

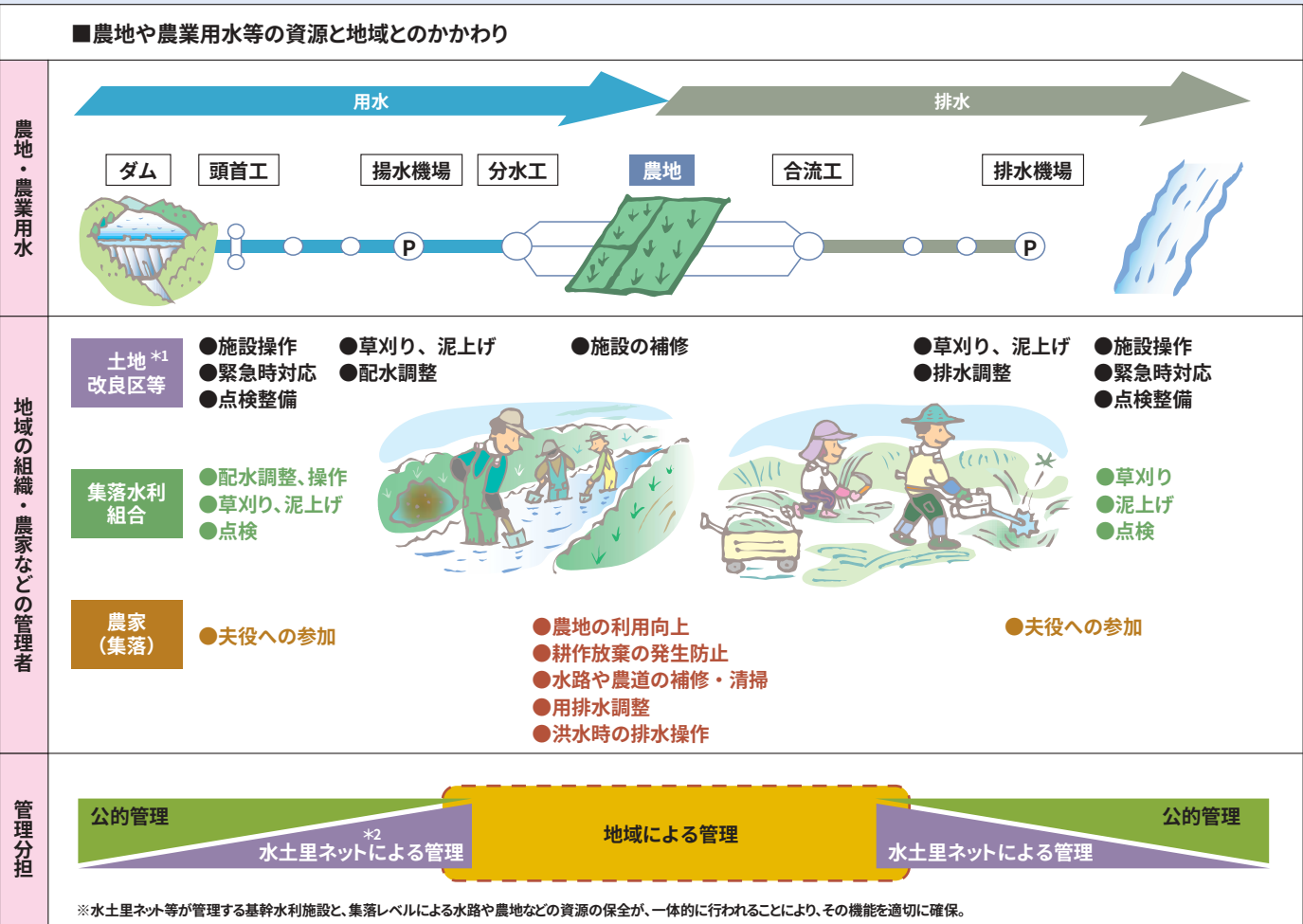
農村は、豊かな自然環境や生物の多様性を育み、美しい景観を生み出し、ゆとりや心のやすらぎをもたらしてくれる。

いま、地域資源を守るのは誰？

地域資源の一つ、農業用水の保全管理は1人の力ではできません。水路の泥上げ、草刈り、点検、施設操作……。すべて共同作業で行われてきました。日本は早くから土地改良区や集落の水利組合など地域の組織を中心に、地域の農家全戸が作業に参加するといった、合理的な管理システムを構築

してきました。

しかしながら農家が減り、1人ひとりの価値観が多様化する今日において、農地や農業用水を守り、明日の環境保全を担うのは誰なのでしょう。いま、こうした地域共同活動を担う新しい仕組みづくりが必要となっています。



*1 土地改良区: かんがい施設を築いてきた水管理組合や水利組合などの役割を受け継ぎ、土地改良法に基づいて設立された農業者の組織。
*2 水土里(みどり)ネット: 土地改良区のアピール。2002年10月、土地改良区の活動を広く知ってもらおうと全国に公募されて決まった。

地域資源はわたしたちの財産——みんなで守る農村へ

日本の農業は、一つの^{てんかんき}転換期を迎えています。農村の高齢化、過疎化、非農家の増加など担い手不足がもたらす現実。これは農業生産の背後で見えにくかった、農地や農業用水路など地域資源の保全が危機にあることをあぶり出しました。

その一方で、地域資源が担ってきた美しい景観や環境保全など多面的機能への期待は、ますます強くなっています。

現在、これらの状況に対応して、今後も地域資源がより良い状態で保全管理していけるよう、支援を含めた新たな仕組みが検討されています。高まる環境保全への要請にも^{ようせい}積極的に応え、かつ地域資源を^{じせだい}次世代へ適切に引き継ぐための仕組みであり、さまざまな人たちの^{うなが}参画を促すことを目指しています。

